

第13回「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」結果発表

5 月に終了する SD 放送 * が今回の調査結果に大きく影響か。 移行完了後の市場動向に大きな注目が。

多チャンネル放送研究所（所長：音 好宏）は、第 13 回目となる「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」を実施しました。これは、同研究所が（一社）衛星放送協会の正会員社の各チャンネルを対象に、多チャンネル放送マーケットの現状と先行き見通しについて調査しているものです。

本調査では、『現状』、『1 年後』、『2 年後』という 3 つの時点について、会員各社が多チャンネルマーケットの動向をどのように捉えているかを訊ねています。

調査時点が 2013 年 11 月で、『1 年後』は 2014 年後半、『2 年後』は 2015 年後半になります。

調査の結果、前回調査（2013 年 5 月実施）に比べ、自社チャンネルの加入者では『現状』で「減少」とする事業者が増え、『1 年後』『2 年後』で「横ばい」が拡大しました。視聴料収入についても同様な傾向がみられ、ここ 1 年が厳しい状況だとする事業者が多いことがわかります。

また、多チャンネル放送全体の加入者動向についても、すべての時点で増加傾向への期待の縮小に合わせて、全体として「減少」への懸念が拡大しております。広告収入は『横ばい』が多く、その他の事業収入も増加傾向が縮小という認識が多くなっています。

今回の調査では、加入者や収入でけん引役であったケーブルや IP 系プラットフォームに対する期待度の低下がはっきりしてきたとともに、124/8 放送サービスで、2014 年 5 月の SD 放送 * 終了が予定されており、これに伴った状況の変化が今回の調査結果に大きく影響していると思われます。移行完了後実施される予定の次回調査で、各事業者がどのように市場を見ることが注目されます。

多チャンネル放送研究所では、今後も定期的に調査を実施し、会員各社の多チャンネル放送のマーケット観を立体的に捉えていく方針です。

なお、調査結果については当研究所ホームページでも掲載しているので参照下さい。

→ <http://www.eiseihoso.org/labo/release.html>

※ 124/8° 衛星における MPEG2 方式による SD 放送

調査結果の概要

1. 自社チャンネルの加入者動向については消極的市況観がより鮮明に

自社チャンネルの全般的な加入者動向は、『現状』では、「横ばい」(44.8%)が最も多く、続いて「減少」(33.3%)、「増加」(20.7%)の順となり、「横ばい」～「減少」で約8割を占めるという、消極的な見方が大勢となった。また『1年後』についても、「横ばい」(47.1%)が最も多く、続いて「減少」(31.0%)、「増加」(19.5%)の順、さらに『2年後』も、「横ばい」(48.3%)、「減少」(29.9%)、「増加」(20.7%)と同じ順位となっている。「増加」の予測は現状～2年後まで一様に20%前後に留まっており、厳しい予測となった。

2. 多チャンネル放送全体についての市況感も消極的な見方が支配的に

多チャンネル放送全体については、まず『現状』においては、「横ばい」が57.5%、次に「減少」が34.5%で続き、「増加」についてはわずか8.0%に留まっている。『1年後』、『2年後』についても「横ばい」がいずれも50.6%で最も多いが、「減少」「大幅減」を合わせた「減少傾向」が『1年後』40.2%、『2年後』41.3%とそれぞれ半数に迫る結果になった。一方「増加」については『1年後』9.2%、『2年後』8.0%に留まり、『現状』と同様、10%を切る厳しい結果となっている。

3. 視聴料収入に対しては変化なしとの停滞感が色濃く

視聴料収入に関する『現状』については、「横ばい」もしくは「減少」という状況で8割以上を占める。

前回(13年5月調査)と比較すると「横ばい」と見る向きが7.1ポイント減の44.8%だが、「減少」が8.5ポイント増の33.3%となり、現状悪化が進んでいるように見える。「増加」という回答はほぼ変化なし。

『1年後』の予測では、「増加」という回答はほぼ変化なし(1.2ポイント微減)だが、「横ばい」が2.3ポイント微増、「減少」が2.3ポイント微減傾向である。

概ね現状の傾向(横ばい～減少)のまま、1年後も推移すると予測する事業者が多い。

『2年後』の予測でも、「増加」という回答はほぼ変化なし(1.2ポイント増)だが、「横ばい」が2.2ポイント微増、「減少」が1.1ポイント微減傾向である。

2年後も、概ね現状の傾向から変化しないと予測する事業者が多く、停滞感が色濃くなっている。

4. 広告収入は「横ばい」もしくは「増加」との回答が多い

自社チャンネルの広告収入については、『現状』では「増加」と「横ばい」が共に35.6%となっており、「減少」とする回答は8.0%と少ない。

『1年後』『2年後』の予測では「横ばい」が最も多く、次いで「増加」となっているが、2つの回答を合わせて80%近くを占める状態は変わらず、今後も広告収入は「横ばい」もしくは「増加」と考えている事業者が多い。

なお、無回答が『現状』で18.4%、『1年後』『2年後』で17.2%あり、チャンネルの中には広告を実施していないところもあることにも留意されたい。

5. 「その他事業収入」拡大に対する期待感が低下の傾向

自社チャンネルのその他事業収入については、『現状』では「横ばい」が44.8%と最も多いが「無回答」が次いで23.0%となっており、「増加」の19.5%を上回っている。

また「減少」とする回答も11.5%となっている。

『1年後』『2年後』の予測では、「横ばい」が最も多い傾向は変わらないが、「増加」が下がっている為、その差も開いている。

直近ではその他事業収入は横ばいではあるが、今後の拡大への期待が低下しているものと見られる。

調 査 の 概 要 に つ い て

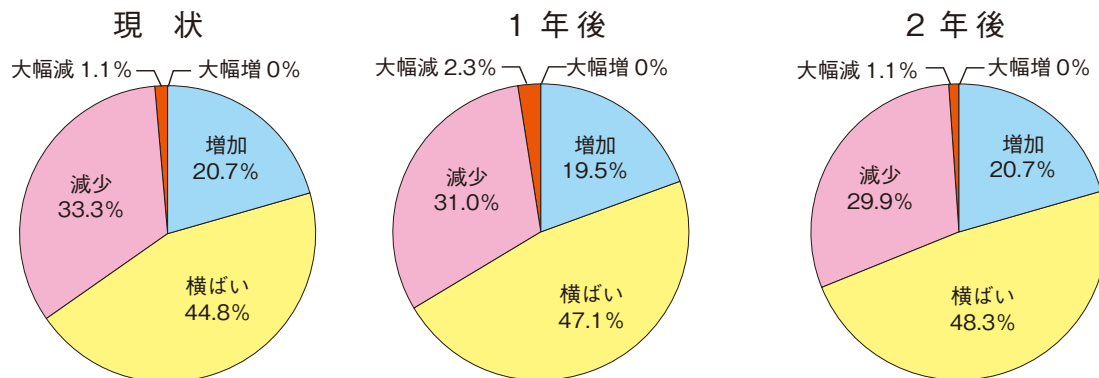
1. 調査時期 2013年11月
2. 調査対象 衛星放送協会正会員社の有料チャンネル（89チャンネル）
3. 調査方法 webによる回答・回収法
4. 回答回収数 87チャンネル
5. 回答回収率 97.8%

資料

調査結果詳細

1. 自社チャンネルの加入者動向予測

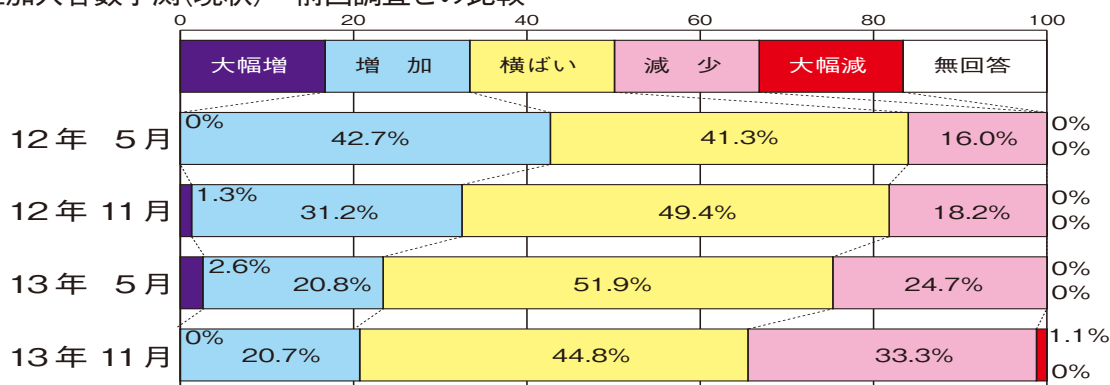
まず、自社チャンネルの全般的な加入者動向を見ると、『現状』では、「横ばい」(44.8%)が最も多く、続いて「減少」(33.3%)、「増加」(20.7%)の順となり、「横ばい」～「減少」で約8割を占めるといふ、消極的な見方が大勢となった。また『1年後』についても、「横ばい」(47.1%)が最も多く、続いて「減少」(31.0%)、「増加」(19.5%)の順、さらに『2年後』も、「横ばい」(48.3%)、「減少」(29.9%)、「増加」(20.7%)と同じ順位となっている。「増加」の予測は現状～2年後まで一様に20%前後に留まっており、厳しい予測となった。



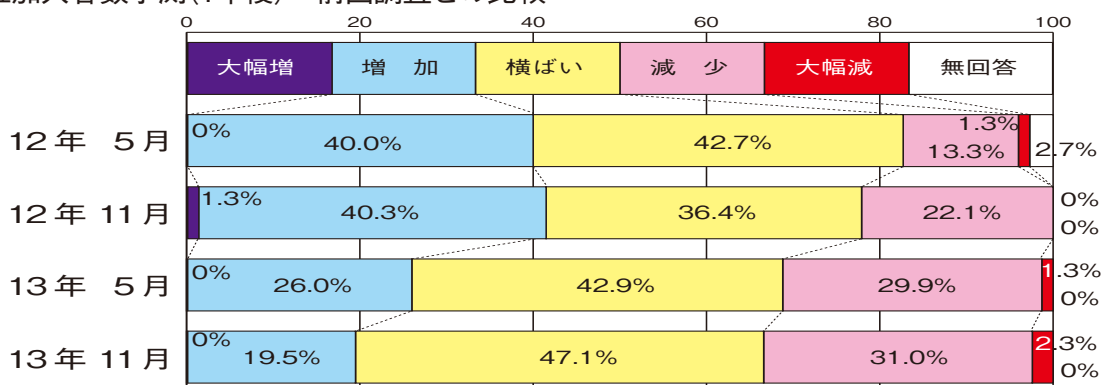
2. 自社チャンネルの加入者動向予測推移

前回調査(2013年5月)では、『現状』については、「減少」と「大幅減」を合わせた「減少傾向」が24.7%であったのに対し、今回調査では、34.4%で、9.7ポイント拡大した。一方で、「大幅増」と「増加」を合わせた「増加傾向」が23.4%から20.7%と2.7ポイントの縮小、「横ばい」の回答は51.9%から44.8%と7.1ポイントの縮小となっている。また、前々回調査(2012年11月)との比較では、「増加傾向」が11.8ポイントの縮小、「減少傾向」は16.2ポイントの拡大となっており、ここ1年間でより悲観的な見方が広がってきていることが顕著となった。『1年後』については、「増加傾向」が前回から6.5ポイントの縮小、前々回からは22.1ポイントの縮小と、ここ1年間で半減以下の結果。さらに『2年後』についても、「増加傾向」は前回より2.7ポイント、前々回より14.4ポイントの縮小となっており、中期的に見ても「横ばい」～「減少傾向」の見方が急速に拡大していることが見て取れる。

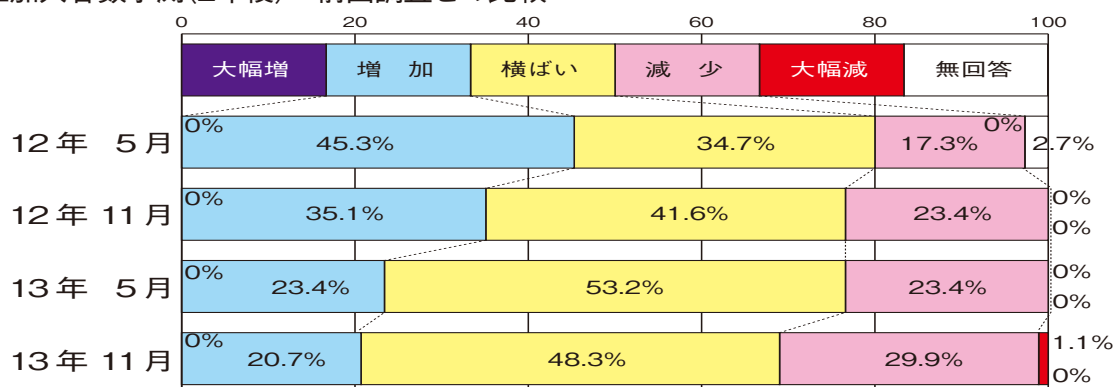
自社加入者数予測(現状)―前回調査との比較



自社加入者数予測(1年後)―前回調査との比較

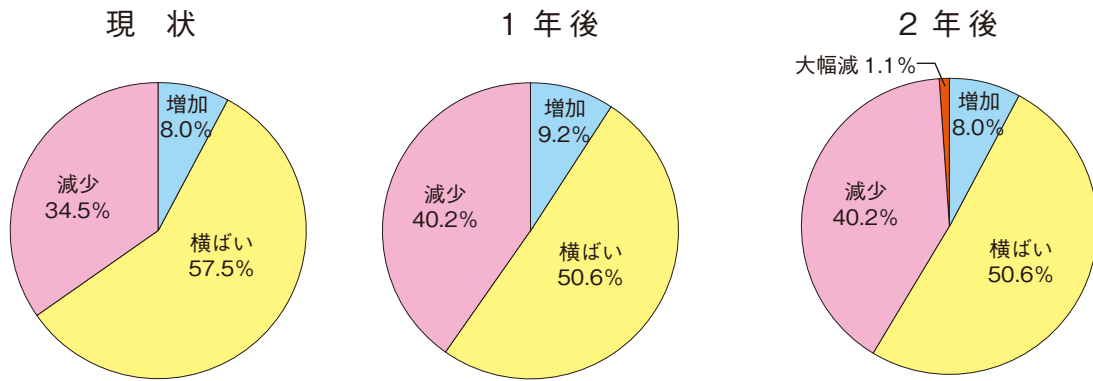


自社加入者数予測(2年後)―前回調査との比較



3. 多チャンネル放送全体の加入者動向

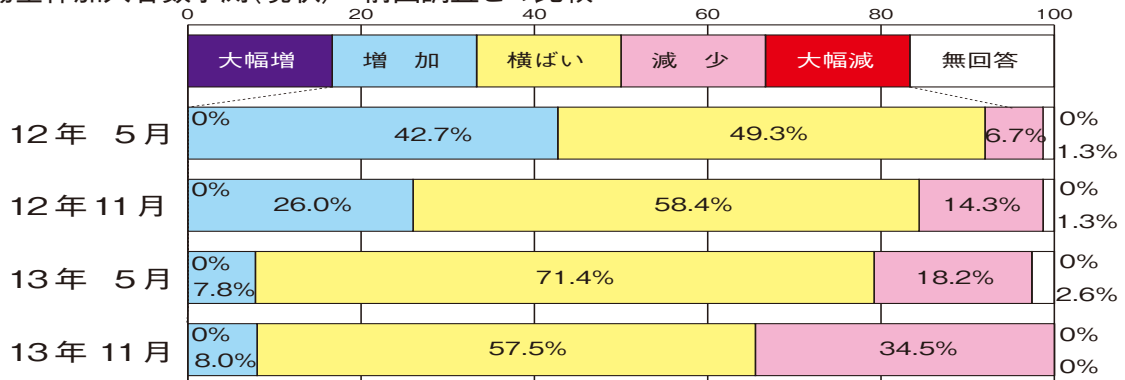
ここでは自社だけでなく、多チャンネル放送全体の加入者動向についての予測を見ていく。まず『現状』においては、「横ばい」が57.5%、次に「減少」が34.5%で続き、「増加」についてはわずか8.0%に留まっている。『1年後』、『2年後』についても「横ばい」がいずれも50.6%で最も多いが、「減少」「大幅減」を合わせた「減少傾向」が『1年後』40.2%、『2年後』41.3%とそれぞれ半数に迫る結果になった。一方「増加」については『1年後』9.2%、『2年後』8.0%に留まり、『現状』と同様、10%を切る厳しい結果となっている。



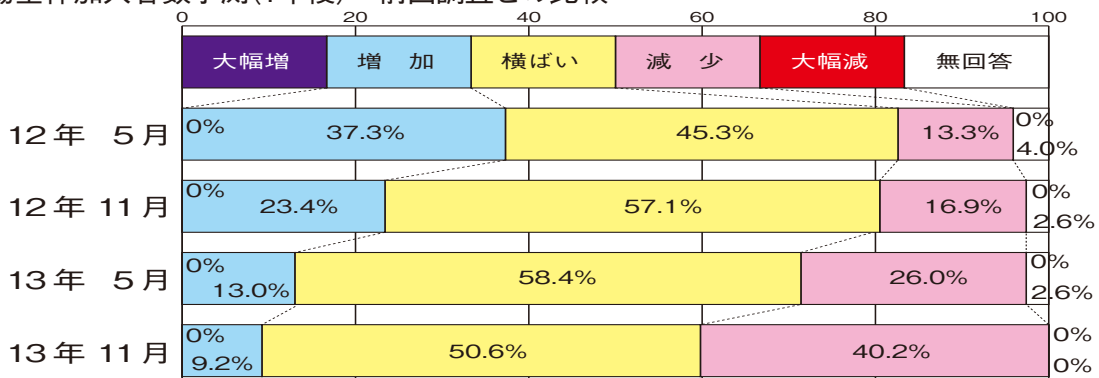
4. 多チャンネル放送全体についての予測推移

『現状』については、「増加」の回答が前々回から前回の段階で26.0%から7.8%と急速に縮小し、「横ばい」が58.4%から71.4%と拡大していたが、今回は「増加」が8.0%と前回同様の結果となった一方で、「横ばい」が縮小、「減少」が前回18.2%から今回34.5%と、16.3ポイント拡大した。前回までの結果からは、「増えないながらも横ばい」という考え方が大勢となっていたのに対し、今回は「減少もあり得る」という考え方に傾いてきていることが窺い知れる。『1年後』、『2年後』についても「増加」「横ばい」は縮小し、「減少傾向」がそれぞれ14.2ポイント、21.8ポイントと大きく拡大。マーケットに対する事業者の見方は、ますます厳しくなっていると言わざるを得ない。

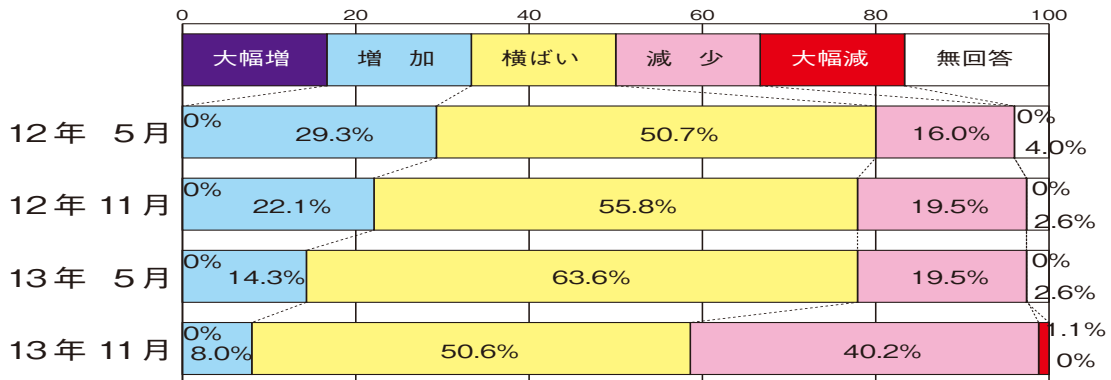
市場全体加入者数予測(現状)―前回調査との比較



市場全体加入者数予測(1年後)―前回調査との比較



市場全体加入者数予測(2年後)―前回調査との比較



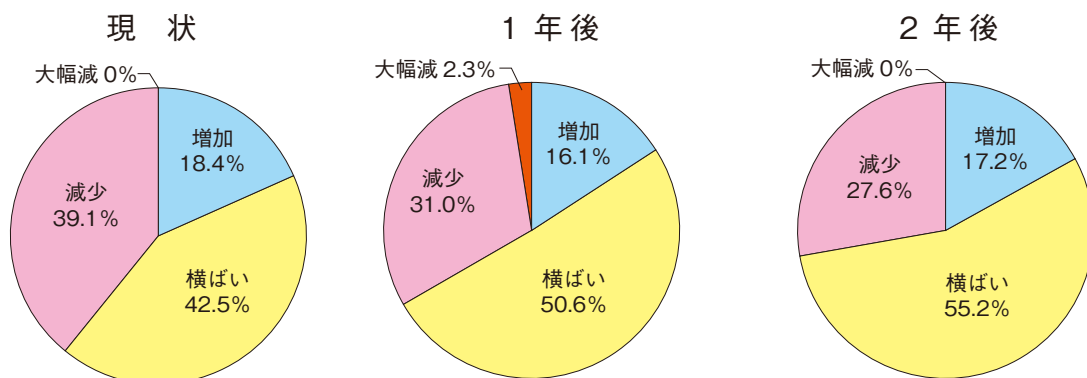
5. 視聴料収入予測

『現状』については、「横ばい」もしくは「減少」という状況で8割以上を占める。前回(13年5月調査)と比較すると「横ばい」と見る向きが12.0ポイント減の42.5%だが、「減少」が11.8ポイント増の39.1%となり、厳しい状況に直面している事業者が増えていることがわかる。「増加」という回答はほぼ変化なし。

『1年後』の予測では、「増加」という回答はほぼ変化なし(2.3ポイント減)だが、「横ばい」が8.0ポイント増、「減少」が8.0ポイント減で、「横ばい」が広がる傾向がみえる。但し、『現状』にはなく「大幅減」と回答した事業者もいる。

概ね現状の傾向(横ばい～減少)のまま、1年後も推移すると予測する事業者が多い。

『2年後』の予測は、『1年後』と比べると「増加」という回答はほぼ変化なし(1.1ポイント増)だが、「横ばい」が5.5ポイント増、「減少」が1.1ポイント微減傾向である。『2年後』では、概ね『1年後』の傾向から変化しないと予測する事業者が多い。逆に言えば、『現状』から『1年後』に視聴料収入が厳しさを増すと捉える事業者が多いことがうかがえる。



6. 自社チャンネル視聴料予測の推移

『現状』について、前回(13年5月調査)・前々回(12年11月調査)と比較すると、「増加傾向」と答えた事業者が減る一方(31.2%→18.2%→18.4%)、「減少傾向」が増える一

方（23.4%→27.3%→39.1%）であり、やはり現状の停滞状況が進んでいるように見える。

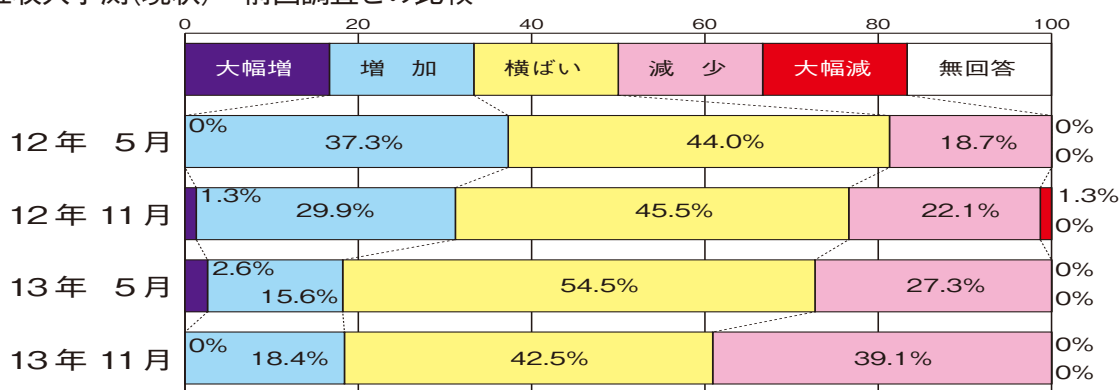
『1年後』の予測では、「増加傾向」という回答は前回・前々回より減少する一方（36.4%→26.0%→16.1%）、「横ばい」「減少」「大幅減」と見る向きがそれぞれ微増傾向となった。

1年前には楽観的な見方をしていた事業者でさえ、この先は厳しい予測になってきていることが特徴的である。

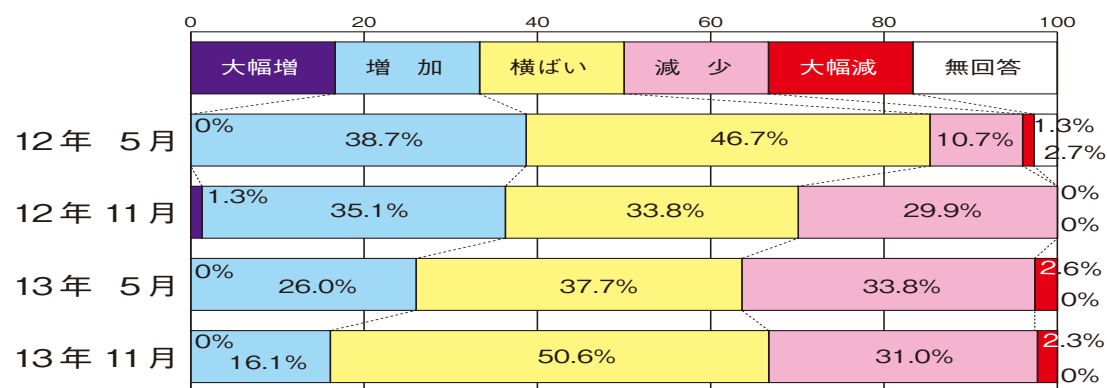
『2年後』についても、「増加」という回答は大きく7.5ポイントも減らし、「横ばい」と見る向きが前回比較で3.3ポイント増の55.2%となり、「減少」は前回比較で4.2ポイント増えた。

1年後同様、おおむね「横ばい～減少」とみる傾向が強まっており、厳しさが続くことが予測されている。

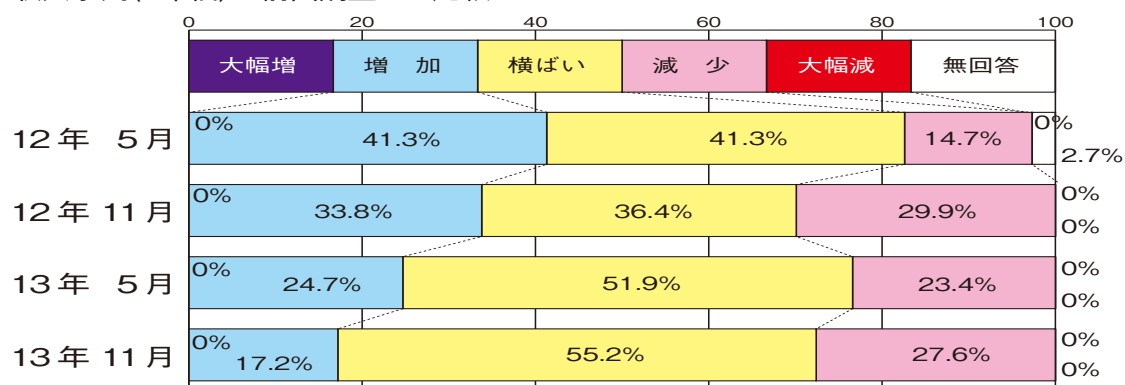
自社収入予測(現状)―前回調査との比較



自社収入予測(1年後)―前回調査との比較



自社収入予測(2年後)―前回調査との比較



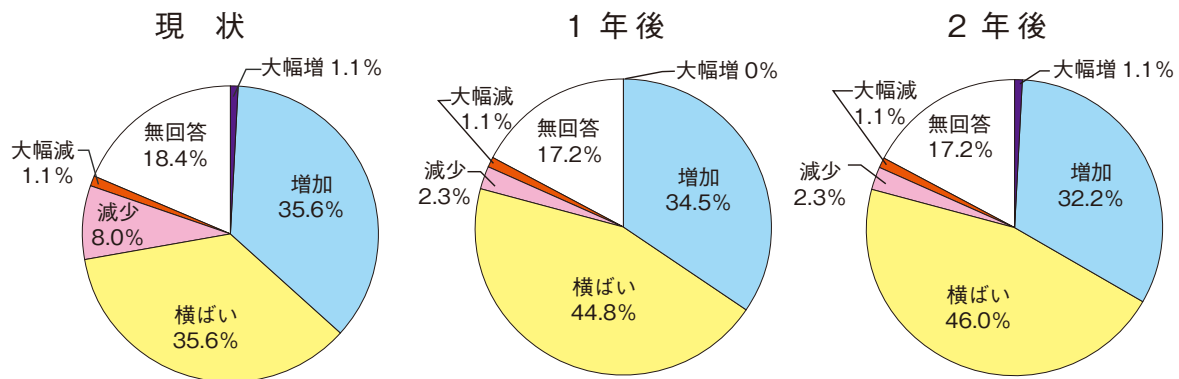
7. 広告収入の動向

自社チャンネルの広告収入については、『現状』では「増加」と「横ばい」が共に35.6%となっており、「減少」とする回答は8.0%と少ない。

『1年後』『2年後』の予測では「横ばい」が最も多く、次いで「増加」となっているが、2つの回答を合わせて80%近くを占める状態は変わらず、

今後も広告収入は「横ばい」もしくは「増加」すると考えている事業者が多い。

なお、無回答が『現状』で18.4%、『1年後』『2年後』で17.2%あり、チャンネルの中には広告を実施していないところもあることにも留意されたい。



8. 広告収入予測の推移

『現状』については、2013年5月実施の前回調査では「横ばい」が下がり、「大幅増」とする回答がそれまでの0.0%から2.6%に伸長した。

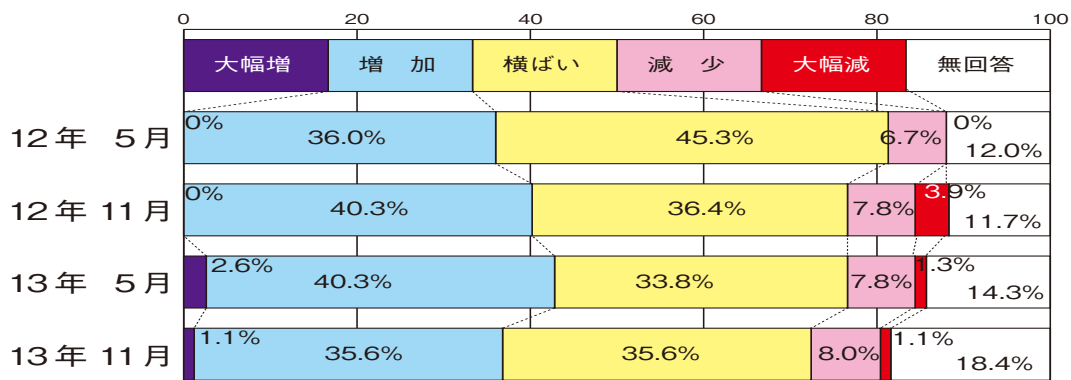
しかし今回調査では「大幅増」は1.1%に下がり、また「増加」も35.6%に下がっている。

但し「減少」や「大幅減」は前回調査とほとんど変わらない結果となっている。

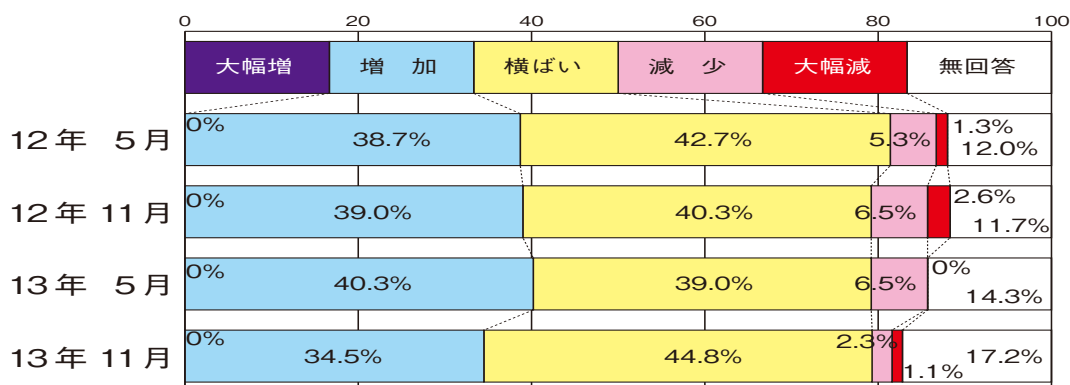
『1年後』『2年後』については、前回調査と同様、「横ばい」が最も多く、次いで「増加」が多い。

但し前回調査と比べると「増加」が下がり、「横ばい」が伸びており、広告収入に対する今後に向けた期待度にやや陰りが見られる。

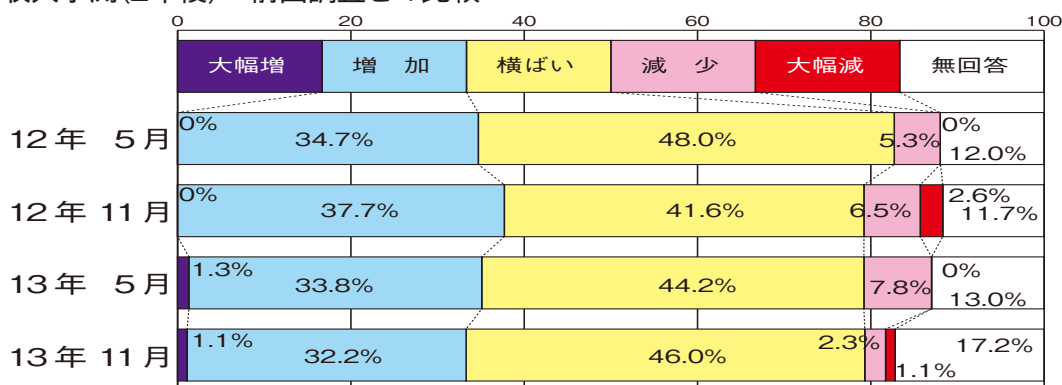
広告収入予測(現状)―前回調査との比較



広告収入予測(1年後)―前回調査との比較



広告収入予測(2年後)―前回調査との比較



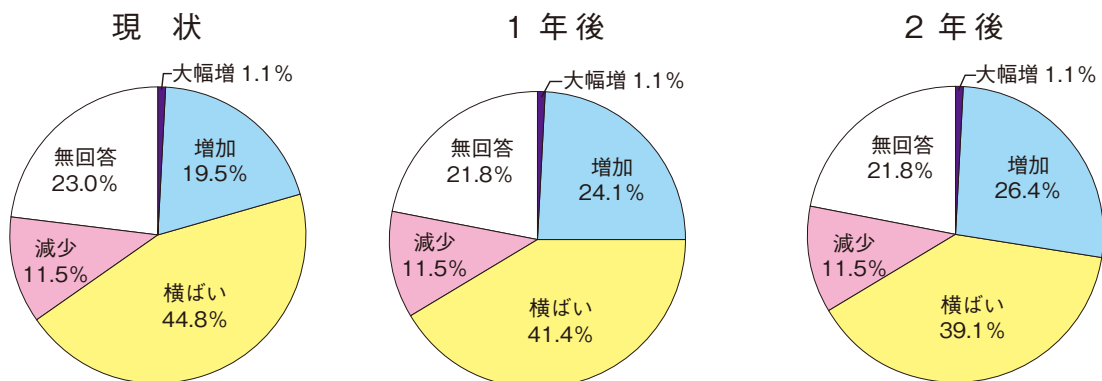
9. その他事業収入予測

自社チャンネルのその他事業収入については、『現状』では「横ばい」が44.8%と最も多いが「無回答」が次いで23.0%となっており、「増加」の19.5%を上回っている。

また「減少」とする回答も11.5%となっている。

『1年後』『2年後』の予測では、「横ばい」が最も多い傾向は変わらないが、「増加」が下がっている為、その差も開いている。

直近ではその他事業収入は横ばいではあるが、今後の拡大への期待が低下しているものと見られる。

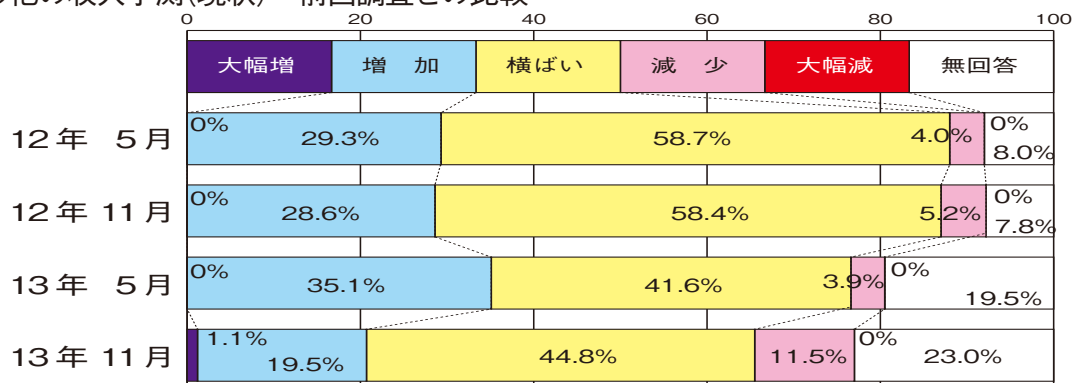


10. その他事業収入予測の推移

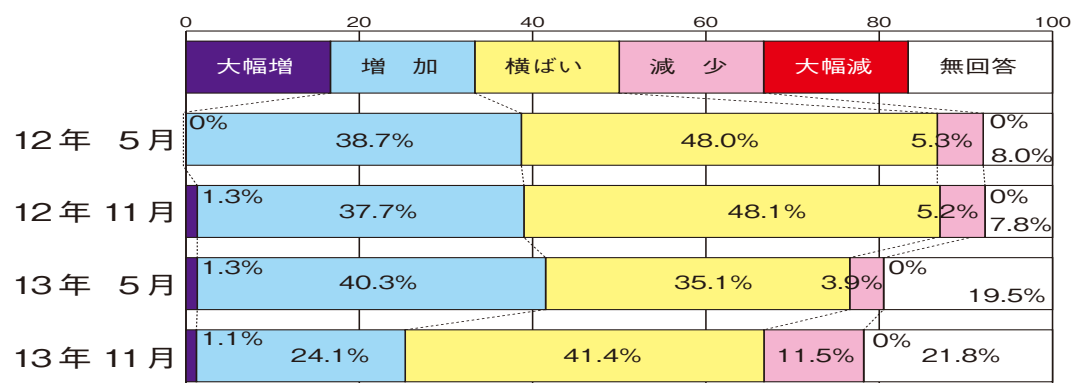
『現在』『1年後』『2年後』のいずれにおいても「増加」が大きく下がっている。

その他事業収入は直近では横ばいではあるが、将来に向けた拡大への期待が低下した事業者が多い。

その他の収入予測(現状)―前回調査との比較



その他の収入予測(1年後)―前回調査との比較



その他の収入予測(2年後)―前回調査との比較

